

中学校3年 学級活動 学習指導案

「ネットワークの公共性を意識して行動する」

日 時：平成 年 月 日（ ）

場 所：

授業者： 教諭 前川 和宏

1 単元名（主題名・題材名）

調和のとれた生活 「それって書いていいの？～掲示板の使い方から～」

2 単元（主題・題材）について

(1) ねらいについて

○ 平成21年度熊本県公立学校いじめアンケート調査結果では（2010年6月11日）、今の学年になってネットいじめを受けた児童・生徒は464人で、特に中学校女子生徒では、225人が「ネット上のいじめ」を受けたとしている。また、県教委が実施している学校裏サイトの書き込み調査では、8491件もの問題投稿が発見されている。ネット上での情報発信は、従来の情報伝達手段とは異なり、匿名性や、同時に不特定多数の者に対して容易に情報発信できるといった特性を備えている。それゆえ、違法又は不適切な行為や情報発信の手段として悪用されたり、ネットへの依存による人間関係の希薄化、心身の健康に対する様々な影響等も含めた問題がそこにはある。「ネットいじめ」はその典型的なものである。一方、正しい使い方をすればネット上でのコミュニケーションは人と人との結びつきを強め、絆を強くする側面も持つ。今、課題となっている「ネットいじめ」を題材にこれからネット社会に生きる生徒たちに、自分はどんなメッセージを情報発信すればよいかを考えさせるだけでなく、日常生活と同様に一人ぼっちにしない支える仲間の存在や、傍観者にならない勇気などについても考えさせたい。

(2) 児童（生徒）の実態について

○ 本学級は、男子〇〇人、女子〇〇人、計〇〇人の学級である。発表することに抵抗を持っているものの、男女仲はよく何事にも意欲的に取り組む集団である。毎月、本校が独自で行っているライフスキルチェックや質問から、価値項目に関連する実態は以下の通りである。

① 普段、携帯やメール、ゲームなどに使用している時間はどれくらいですか？

30分：〇人、1時間：〇人、1時間30分：〇人、2時間：〇人、2時間以上：〇人

② 「ネットいじめ」という言葉を知っていますか？ 知っている：〇人

③ 携帯電話を持っている、または使っている。使っている：〇人

④ 「学校裏サイト」を見たことがありますか？ 見たことがある：〇人

⑤ 人にいやなことを言われたり、されたりしたことがありますか？ ある〇人

まだ携帯電話の所有率は低く、プロフ等を持っている生徒も少ない。また、節度ある行動ができているという意識は高いものの、携帯やゲーム、メール等の利用時間がかな

り多い生徒も見られる。受験生であるこの時期に、携帯電話を事例とした本資料を使い、自分はどんなメッセージを情報発信すればよいかを考えさせることは、残された中学校生活をより充実させる事につながる。「ネットいじめ」の言葉は9月の情報モラル授業で言葉として指導している。

### (3) 資料について

○「春野家ケータイ物語」(第8話【解説部分を除く】) [s-ktai.jp/index.html](http://s-ktai.jp/index.html) を導入資料として活用する。掲示板への執拗な嫌がらせの書き込みから落ち込む主人公。やがて実際の生活の中でもいじめが始まり、家族、友人、先生を巻き込んで、このいじめに立ち向かっていくストーリーである。心配している人がいること、また、その人たちが支えてくれたことで、主人公が「ネットいじめ」に立ち向かうことができた姿を追わせたい。学校裏サイトの書き込み集計グラフ、本校3年生が昨年度取り組んだ「安心・安全のためのネット標語」(総務省)や「iあるメール大賞」(NTTドコモ)の受賞作品などの資料を紹介し、相手の顔が見えないネット上だからこそ、相手のことを思いやる情報発信をしていくよう導きたい。また、県警パンフレット等でネットいじめは犯罪につながることも知らせる。



「春野家ケータイ物語」より

### (4) 指導にあたって

- ① 現実感のあるドラマや実際の学校裏サイトの集計結果を使い、今、ネットいじめにあっている生徒がいる現実を伝えていきたい。
- ② 掲示板への書き込みが犯罪へつながる危険性があることを、県警のパンフレット等を使い説明する。
- ③ 安心・安全の標語などを紹介し、ネット上の情報発信にもネットいじめばかりではなく、心を温かくするような発信もあることを知らせ、掲示板などの道具ではなく、使い手の問題が大きいことを押さえる。

### (5) 情報モラル教育の視点から

- ① 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「5 公共的なネットワーク社会の構築」、項目「i4 情報社会の一員として、公共的な意識を持ち、適切な判断や行動ができる。」との関連を重視して展開する。
- ② 導入時の高校生を想定したネットいじめのドラマや、実際の学校裏サイトの集計結果を教材として使うことで、情報発信への危険について現実感や切迫感を持たせたい。
- ③ 責任ある情報発信と相手を思いやる行動を考えさせるため、安心・安全のためのネット標語作りは継続して取り組ませる。

### (6) 人権教育の視点

- ① 自分の考えを、自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。
- ② 他の人の意見も尊重しながら、ともに学習しようとする態度を育てる。

### 3 本時の学習 ( 1 / 1 時間 )

#### (1) 目標

ネットいじめのドラマの視聴を通して、責任ある情報発信と相手を思いやる行動を考えることで、公共的な意識を高め、よりよいネット社会の実現に努めようとする。

#### (2) 展開

過程	学習活動	○主な発問と児童の反応	教師の指導と評価	備考
導入 5分	①文化祭での学年劇を思い出させ、身近でおきたトラブルについて話し合う。	○主な発問 「河田君はどんないじめを受けていたでしょう？」 ・悪口を言われた。 ・無視された。 「今日はネット上での事例をもとに、情報発信について考えていきます。」	・文化祭の劇を思い出させ、いじめられている主人公を思い出させる。	学年劇の画像
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           学習課題            ネット上の情報発信(掲示板の使い方)について考えよう         </div>				
展開 20分	②ドラマを視聴し主人公の気持ちについて考える。 	「裏サイトに自分のことが書かれていると知った主人公はどんな気持ちだろう」 ・いやだ。悔しい。 ・誰にもいえない。 ・家族に心配かけたくない。 ・友達を巻き込みたくない。	・インターネット上にある掲示板について考えることを伝え、ドラマの本編を視聴する。(11分)	PC PJ スライド
		「削除されている掲示板や友人からの書き込みをみてどう思っただろう」 ・本当だろうか。 ・うれしい、仲間がいてよかった。 ・ありがとう	・仲間の書き込みに助けられた主人公の心情を押さえる。	スライド
	③掲示板に書いてあった内容は犯罪につながることを知る。	「これって犯罪につながるだろうか？」 ・相手をいじめる書き込みって犯罪につながる。	・実際の書き込みを例に名誉毀損、侮辱罪などの刑法上の犯罪に当てはめてみせる。	県警パンフレット

15分	<p>④ 県内の学校裏サイトの書き込み実態を知る。</p>	<p>「『225人』これは何の数でしょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットいじめの数</li> <li>・被害者の人数</li> </ul> <p>「県内ではこういうことは起きていないだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起きているかもしれない。</li> </ul> <p>「起きたときはどう対応すればよいか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親に相談する。</li> <li>・友達に相談する。</li> <li>・先生に相談する。</li> <li>・相談できる人を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケートからのデータを示し、ネットいじめの現実感を持たせる。</li> <li>・個人情報の流布が主だが、ネットいじめが200件以上あったことも確認する。</li> <li>・県警の肥後っ子サポートセンター等もあることを知らせる。</li> </ul>	<p>県教委 いじめアンケート</p> <p>学校非公式サイトに係る調査結果について(県教委)</p>
	<p>⑤ 情報発信する際に気をつけることを考える。</p>	<p>「では、あなたはどのような情報発信をしますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を思いやる発信。</li> <li>・ドラマの仲間が書いたような発信。</li> <li>・自分の発信に責任を持つ。</li> <li>・困ったときには家族や先生たち大人に相談する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラマを想起させネット社会での情報発信のあり方を考えさせる。</li> </ul> <p>【関心・意欲】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット社会での情報発信のあり方について自分なりに考えることができたか。</li> </ul>	<p>シーン 画像</p>
5分	<p>⑥ 情報発信の例を知る。</p> <p>iあるメール大賞</p>	<p>「先生がいいなあと思った情報発信の例を紹介します」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声に出して読み、安心・安全のための標語やiあるメール大賞の受賞作を紹介し、もらった人の心が温くなるような文面であることを押さえる。</li> </ul>	<p>標語 iあるメール大賞</p>
まとめ 5分	<p>⑦ 授業の感想を書く。</p>	<p>「今日の授業の感想を書きましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を書かせ、安心・安全の標語作りを継続して行うことを知らせる。</li> </ul>	<p>シート</p>

#### 4 全体計画

情報モラル（中目標）	道徳、各教科・特別活動 他
a4-1：情報社会における自分の責任や義務について考え行動する。	道徳 「たまにはメール来なくてもいいかも？」 1-(1)節度「健康や時間の大切さを自覚し、節度と節制に努め調和のある生活をする。」（本時） 心の触れ合い「ごあいさつのすすめ」2-(1)礼儀
b4-1：個人の権利・人格権・肖像権などを尊重する。 b4-2：著作権などの知的財産権を尊重する。	道徳 規則の意義「二つの手紙」4-(2) ・社会の秩序と規律 技術【関連】技：TRY「著作物の利用の仕方」（知的財産権）
c4-2：情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る。 c4-3：契約の基本的な考え方を知りそれに伴う責任を理解する。	社会「社会の発展と新しい人権」 ・知る権利とプライバシーの権利との関連を考える。 家庭 わたしたちの消費と環境「消費者としての自覚をもとう」 ・悪質な商法の種類やトラブルについて理解し、契約の意味を知る。
d4-2：トラブルに遭遇したとき主体的に解決を図る方法を知る。	家庭 わたしたちの消費と環境「消費者としての自覚をもとう」 ・トラブルへの対処法を考えることができる。
e4-1：情報の信頼性を吟味できる。（2年時）	技術 情報とわたしたちの生活「インターネットで情報を収集しよう」（情報の信憑性） ・インターネットによる情報収集の方法について理解する。 【関連】「情報伝達の方法を調べてみよう」 ・いろいろな情報を伝達する手段の特徴や利点について調べ、比較する。
f4-1：健康の面に配慮した情報メディアとの関わり方を意識し行動できる。	国語 【関連】「メディア社会を生きる」 ・メディア社会やメディアの働きに関心を持つ。
g4-1：情報セキュリティの基礎的な知識を身につける。	社会 「情報社会と私たちの責任」 ・情報社会の一員として責任ある行動の必要性を理解する。
h4-1：基礎的なセキュリティ対策が立てられる。	道徳 規則の意義「二つの手紙」 ・社会の秩序と規律 4-(2)
i4-1：ネットワークの公共性を意識して行動する。	学級活動 「これって書いていいの～掲示板の使い方～」 「責任ある情報発信と相手を思いやる行動を考えることで、公共的な意識を高め、よりよいネット社会の実現に努めようとする。」 社会 マルチメディアの活用「現在の情報通信ネットワーク」 ・インターネット等（マルチメディア）の利用分野を知る。 【関連】道：プラットフォーム「よりよい情報社会のために」

